

# 岐阜県経済の現状



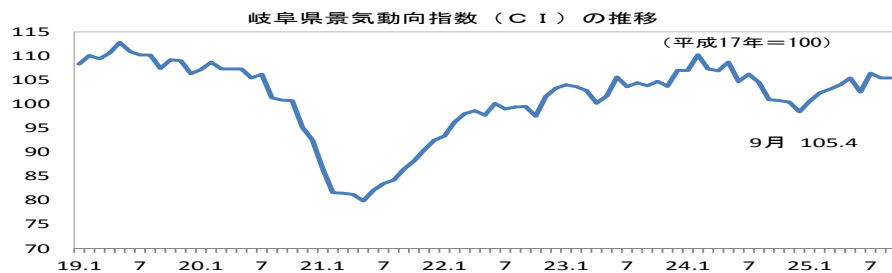
平成25年12月分  
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは1月8日～10日を中心に実施し、1月14日に作成。

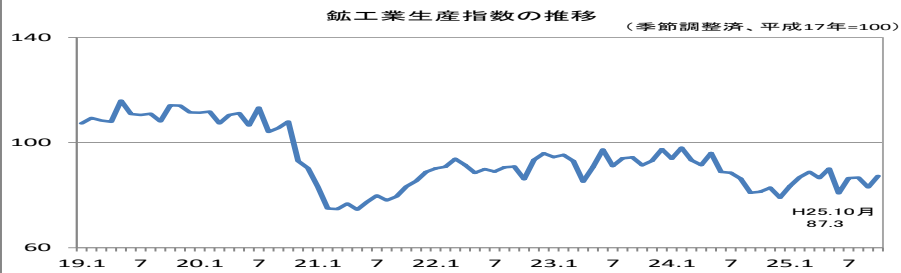
# 景気動向・製造業

○9月の景気動向指数(CI、一致指数)は105.4と前月と同値。県内中小企業の11月の景況感 $\Delta$ 4であった。

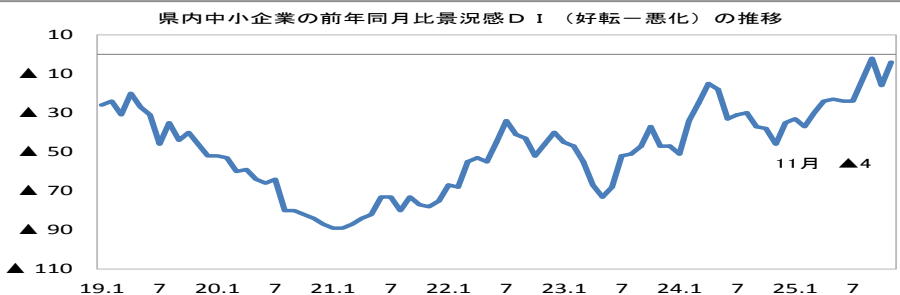
○10月の鉱工業生産指数は、5.2%増の87.3となった。製造業及び非製造業の売上高は増加。



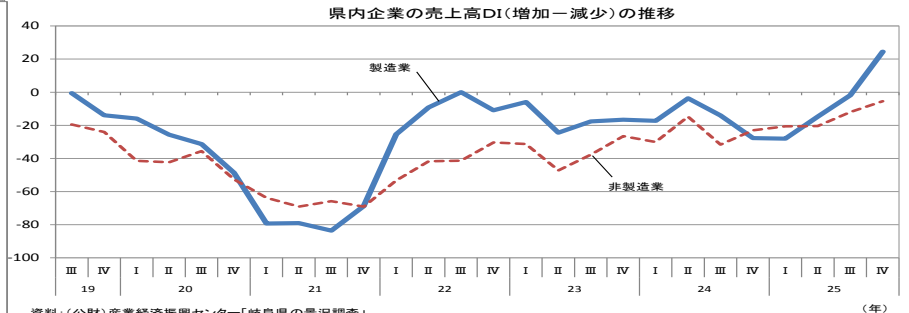
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」



県統計課「岐阜県鉱工業指数」



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」



資料: (公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

## 現場の動き

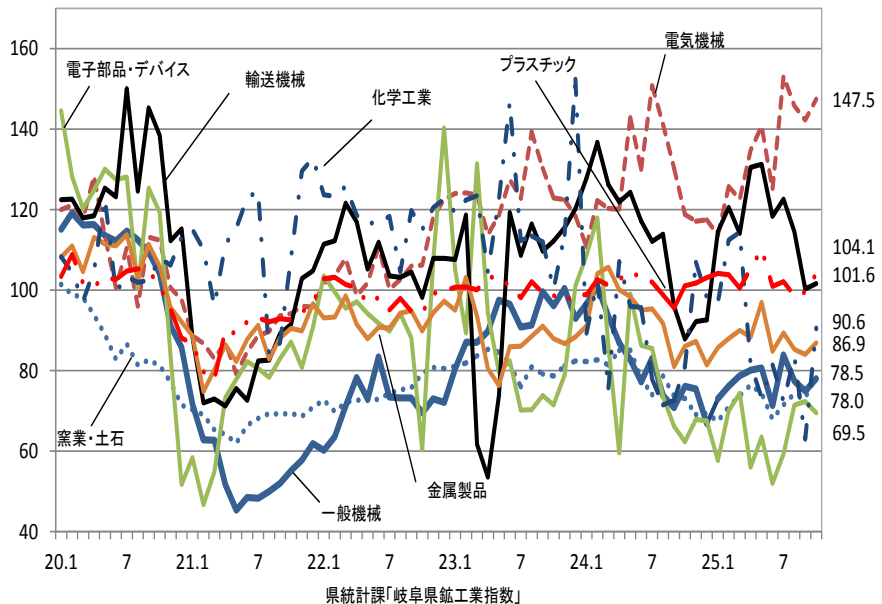
- ◆ 売上げ、受注量ともに対前月比で変わらない。対前年同月比では10%増加。
- ◆ 仕事はあってもランニングコストが上昇しているため利潤が出ない。
- ◆ 12月の日当たりの生産量は11月比で横ばいであった。トヨタ自動車は1~3月の国内生産ペースを12月比で1割上げることから、当社も土曜はフル稼働で対応する。(以上、輸送用機械)
- ◆ 受注量、売上額ともに、対前月比、対前年同月比で増加。
- ◆ 受注量、売上額ともに、対前月比で減少、対前年同月比で増加。自動車向け金型用部品、海外向出荷が好調。(以上、生産用機械)
- ◆ 国内需要の回復及びアメリカの好景気の影響と分析しているが、12月下旬に取引先から大型の受注を得た。(金属製品)
- ◆ 引き続き好調な状況で、1月には新規部品の発注もあり、出荷量増を見込んでいる。(プラスチック)

# 製造業-2(業種別)

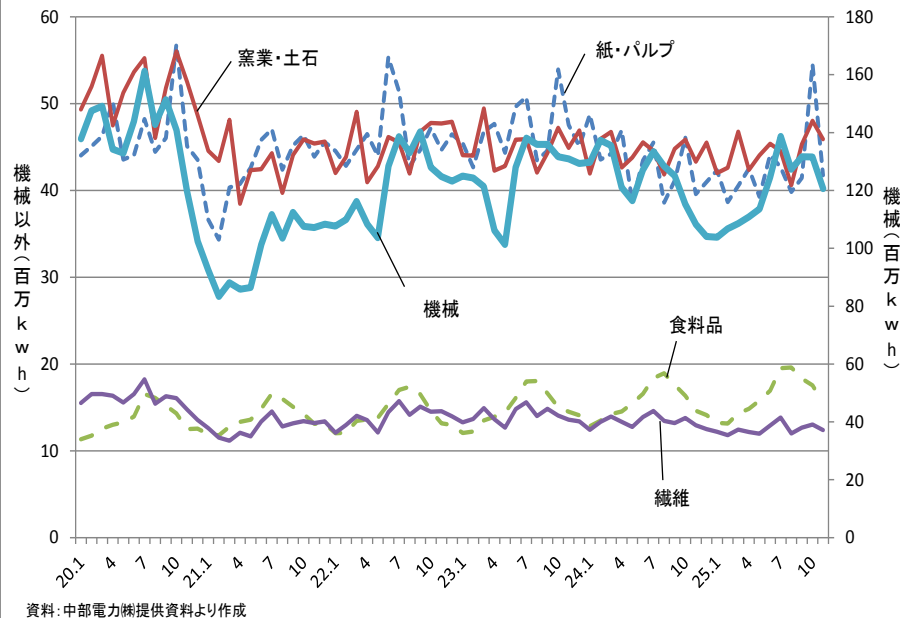
○10月の生産指数は、電子部品・デバイスで低下したものの、電気機械、プラスチック、輸送用機械、化学工業など多くの産業で上昇した。

○11月の工場向け販売電力量は、繊維で前年を下回ったものの、紙・パルプ、窯業・土石、機械で前年を上回った。

主な産業の生産指数 (季節調整済、平成17年=100)



業種別 産業用大口電力(契約500kw以上)の販売電力量



## 現場の動き

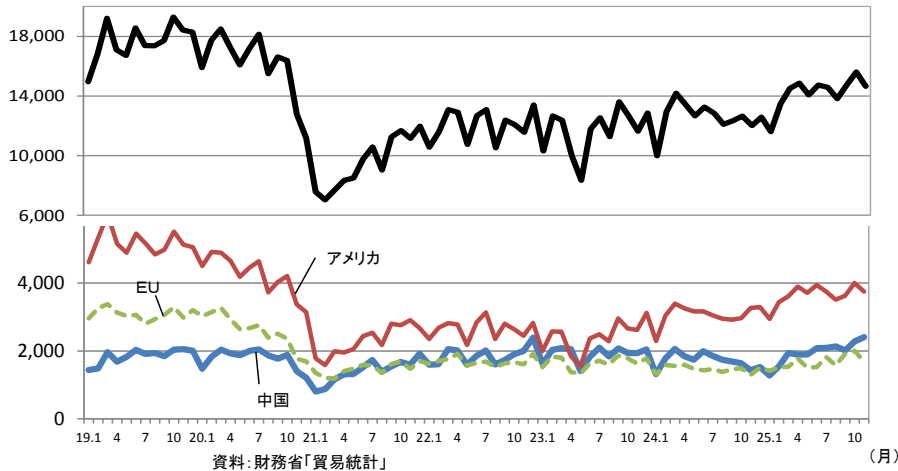
- ◆今年の秋冬物は、残暑が厳しく、秋がなかったため、特に秋物の売上が落ちた。冬物に関しては、ウールコートの売上が例年より良い。(アパレル)
- ◆タイル業界全体をみても、一昨年は好調であったが、昨年は大きく落ち込んだ。(陶磁器)
- ◆景況感についてはここ数か月大きな変化はない。(刃物)
- ◆最近の景況について、昨年の今頃と比べると変わらない。(紙)
- ◆12月は昨年同時期と比べて1.5倍程度伸びている。10月、11月に引き続いて好調を維持している。OEM生産、自社商品生産、両方とも好調。(木工)

# 輸出

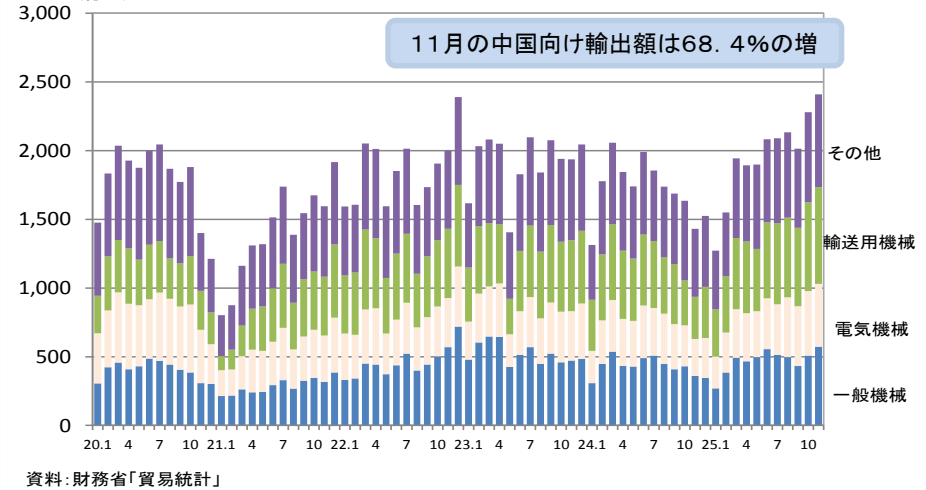
○11月の輸出額(名古屋税関管内)は、14,653億円で前年同月比22.0%増となった。

○中国向け輸出は一般機械、輸送用機械等の全ての産業が増加したことで前年同月比68.4%増と8カ月連続の増加となった。アメリカ向け輸出は一般機械、電気機械で減少したものの、輸送用機械等の産業が増加したことで前年同月比14.8%増となり、14か月連続で前年を上回っている。

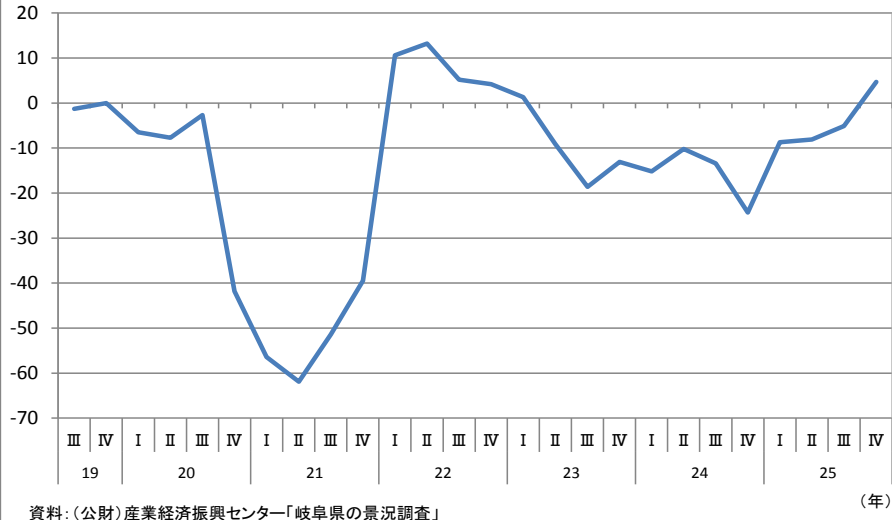
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(全産業)



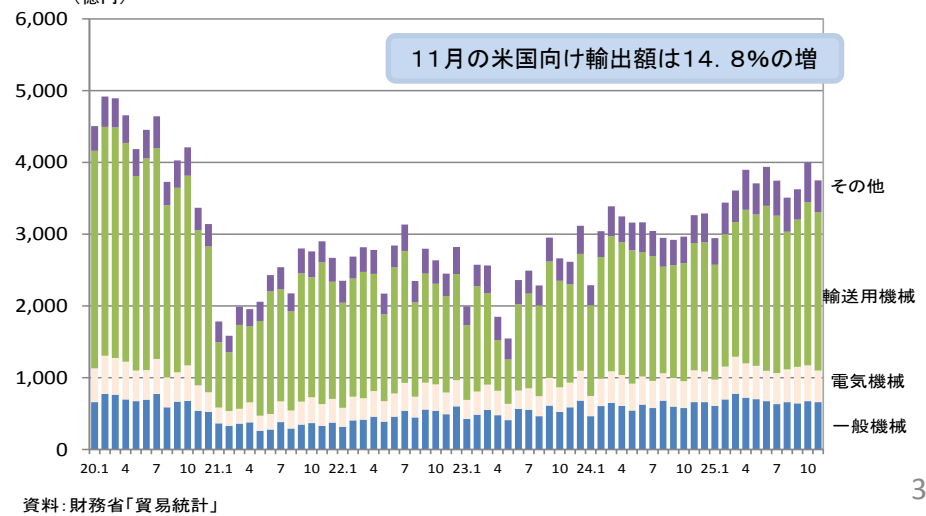
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(中国向け)



県内企業の輸出向け売上高DI(増加-減少)の推移



(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(アメリカ向け)



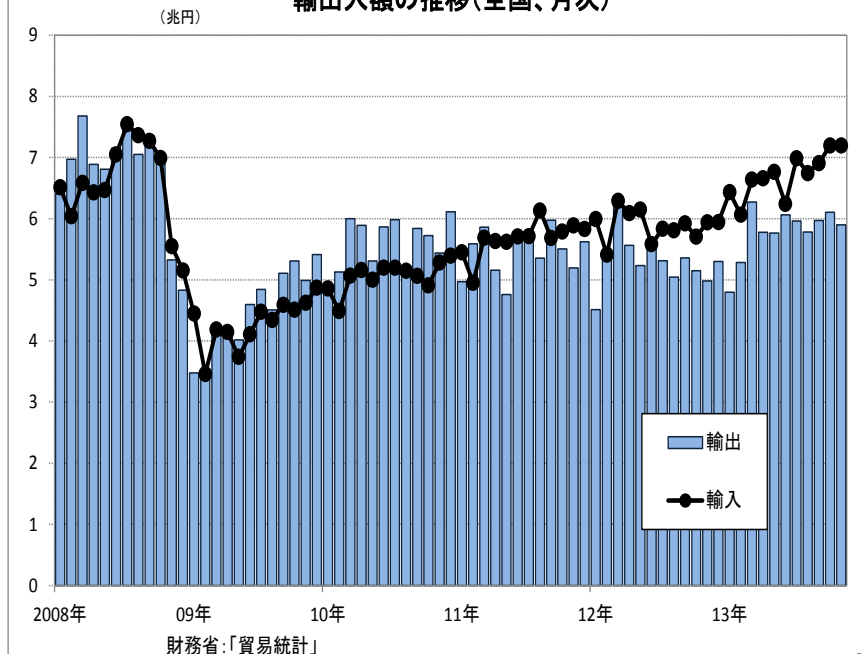
## アベノミクスの効果・影響について

- ◆国内市場でも好調な状態が続いている理由は、消費税増税前の駆け込み需要の影響なのかアベノミクスの影響なのか、その区別は、長期的にみないと分からないのではないかと。
- ◆円安効果としてはあり。国内の需要が増えている感じはしないので、総括としては不明。(以上、輸送用機械)
- ◆当社は輸出関連企業であるため、円安によるアベノミクス効果はあった。(電気機械)
- ◆忙しくなりつつあり、全般的に効果が生じてきたと感じている。(生産用機械)
- ◆これまでのところアベノミクスによる好影響の実感を受けたことはない。(はん用機械)
- ◆大手がアベノミクスの効果を受けていると思うが、それに引きずられるように少し好影響(国内需要の回復等)が生じてきていると思う。(金属製品)
- ◆アベノミクスの効果・影響は、まったく感じられない。それよりも、4月からの消費増税の影響が懸念される。(アパレル)
- ◆アベノミクスの効果は、当社では今のところ感じられない。しかし、今後、東京オリンピックに向けての経済効果や経済政策による賃金上昇によって消費者の消費意欲が高まることを期待したい。(食品製造)
- ◆物流業界もようやくアベノミクスなのか景気の回復を少しずつ実感できるようになった。(運輸業)
- ◆管内の中小企業者にまで下りてきている実感は今のところない。(金融機関)

## 円安・原油高による影響について

- ◆輸入原料への依存率が大きいと、製造コストに占める原料費の割合が大きくなりつつある。(食品製造)
- ◆中国からの自動車部品が採算割れし、国内調達に回帰するものが出てきた。(生産用機械)
- ◆原料価格は、平成25年1月に入り再度上昇に転じ、第3四半期まで上昇した後、高止まり状態となっており、さらに電力料金の値上げ等経費増の影響によるコストアップにより収益構造が悪化し、販売価格への転嫁活動を実施したが環境は極めて厳しい。(プラスチック)
- ◆円安・原油高による影響については、原材料が値上がりになっているとともに、電気・ガス代が値上げになっているが、価格転嫁は難しいためコスト増を内部吸収せざるを得ない。(食品製造)
- ◆外材を使用した製品は、円安・原油高により製造価格が上昇し、利益を圧迫している。(製材所)

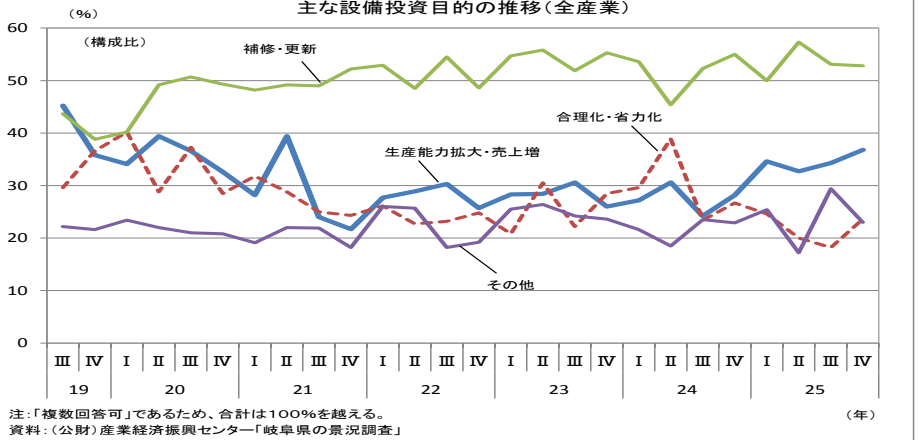
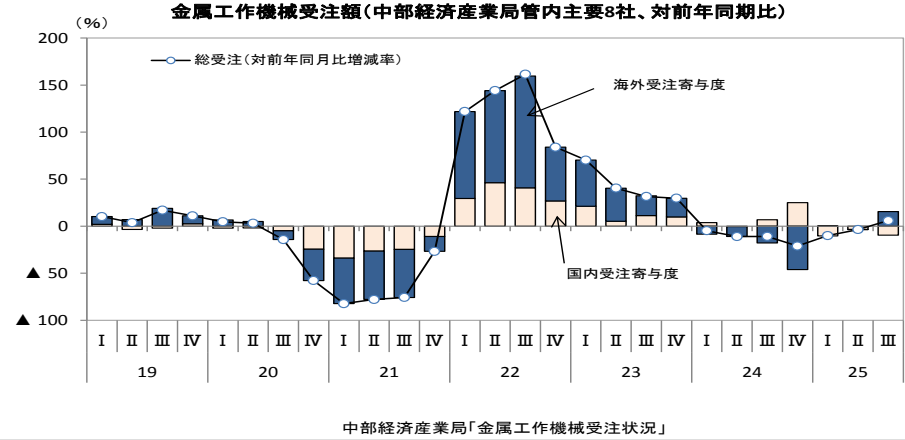
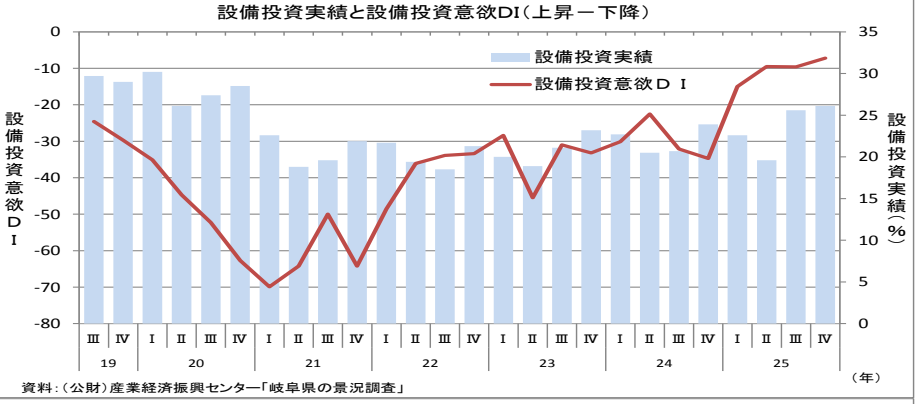
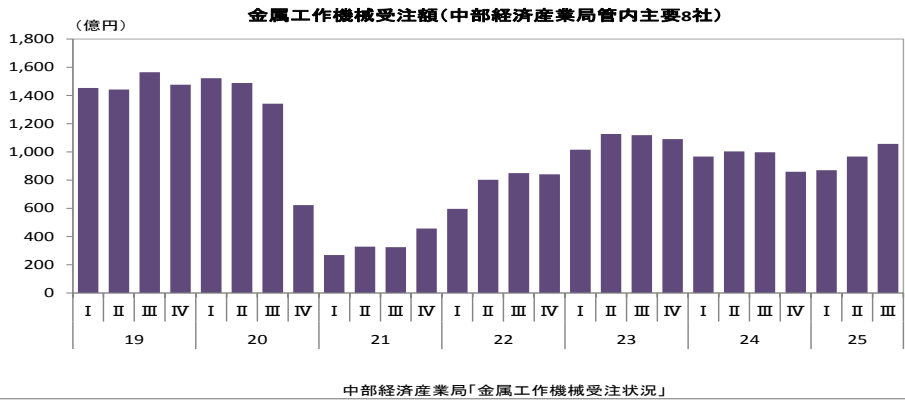
輸出入額の推移(全国、月次)



# 設備投資

- 生産用機械の受注額は、海外受注が増加したことで、7期ぶりのプラスとなった。
- 設備投資意欲DIは改善している。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加している。



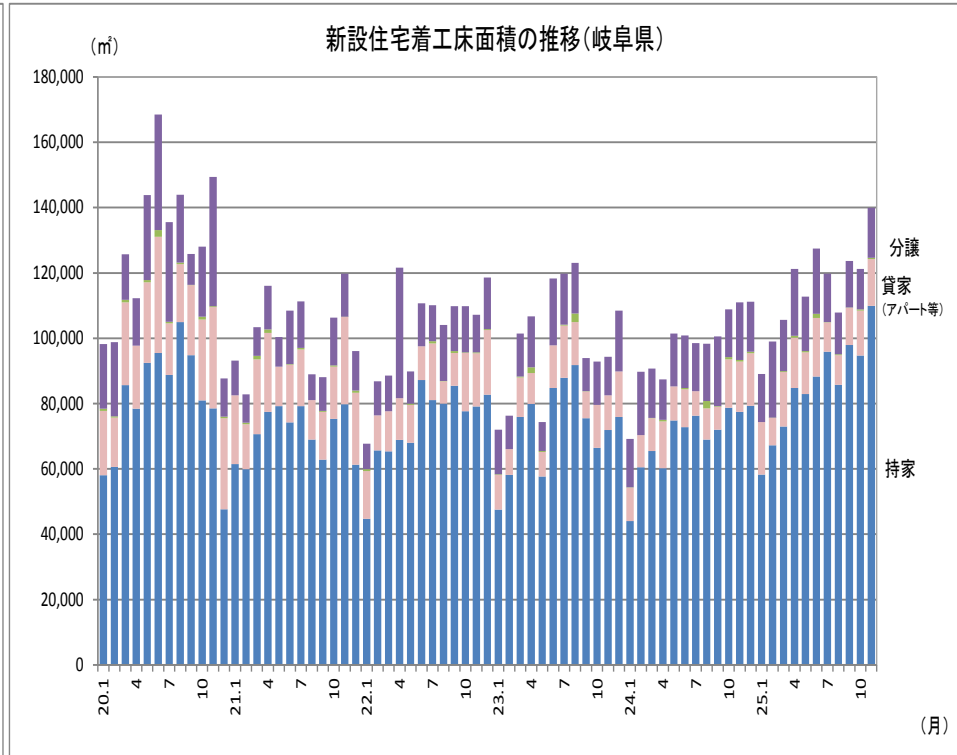
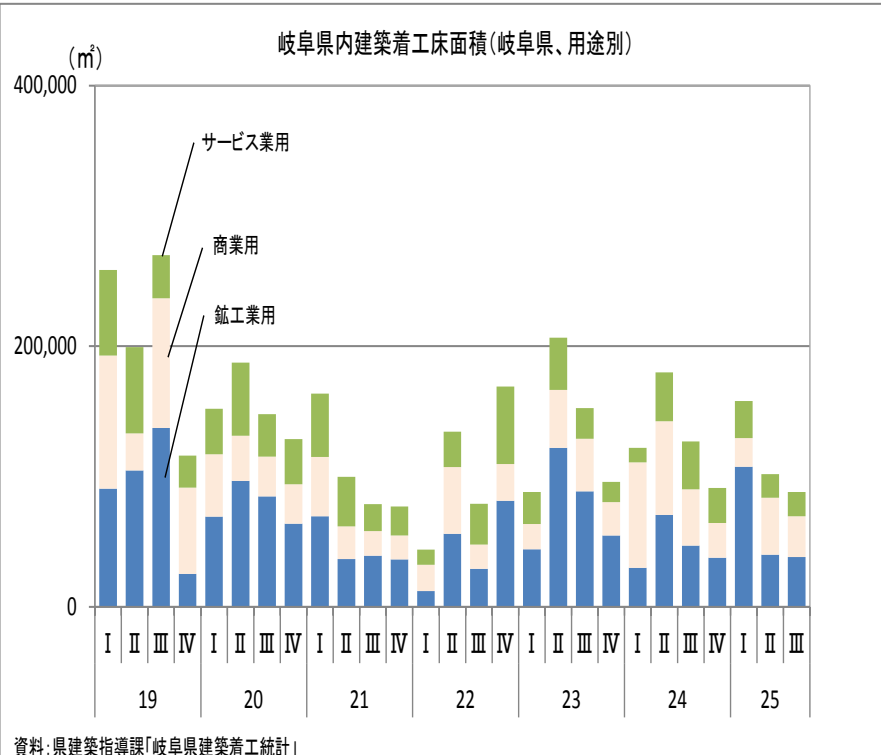
## 現場の動き

- ◆3月には新たな設備を導入する予定である。（輸送用機械）
- ◆相変わらず電気・電子向けの設備投資には動きが見られない。（生産用機械）
- ◆数千万円規模の設備投資（設備更新及び新規研削技術開発のための設備投資）を現在進めている。（はん用機械）
- ◆設備への動きはまだ様子見といったところ。（金融機関）

# 住宅・建築投資

○25年7-9月期の建築着工は、全ての用途で減少したことにより、全体では前年同期比30.6%の減となった。

○11月の住宅着工は、分譲、貸家では減少したが、持家が増加したことにより、全体では前年同月比26.2%の増と15カ月連続の増加となった。



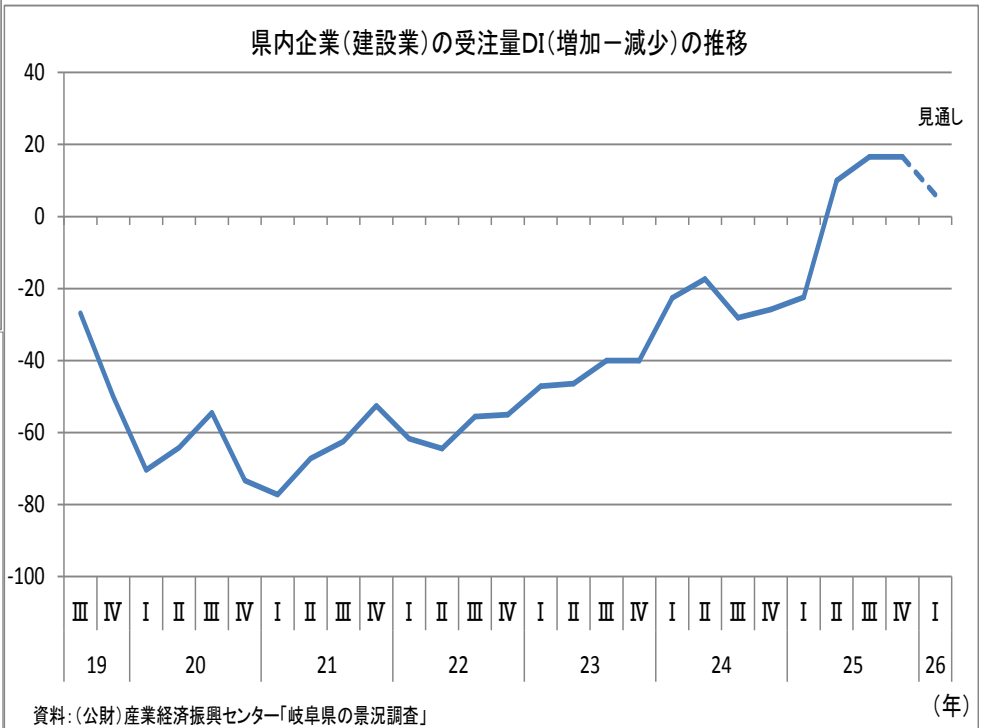
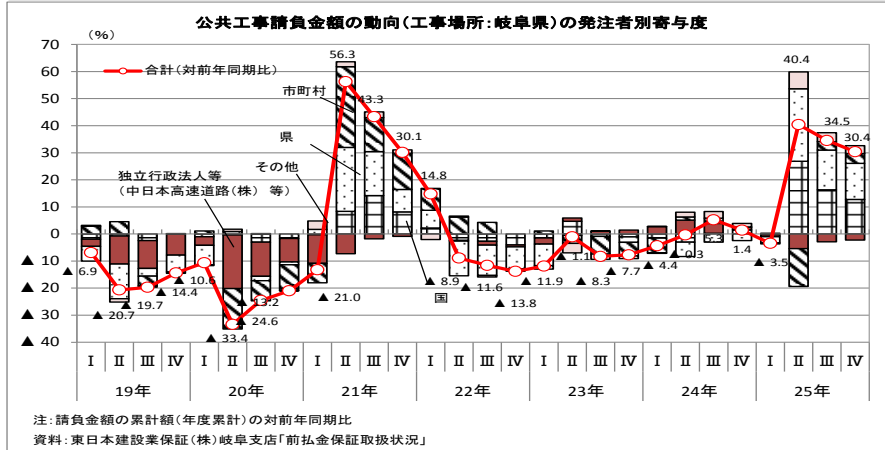
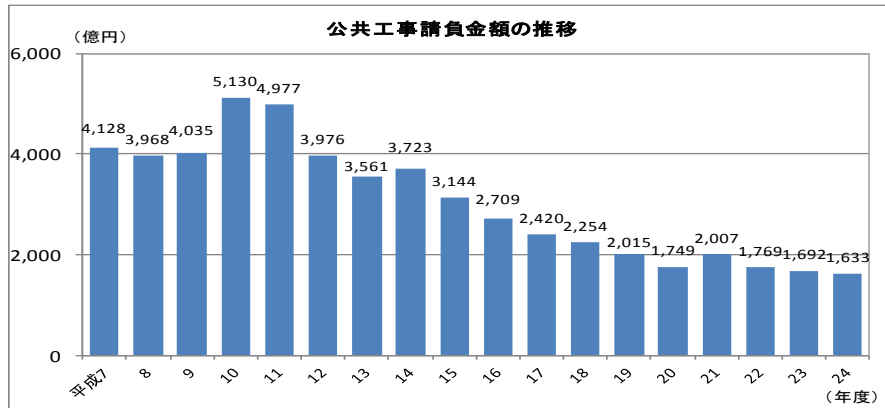
## 現場の動き

- ◆現時点での取扱い量は、対前年比130%で推移している。(木材市場)
- ◆売上は好調を維持。原木調達は11月下旬以降やや改善されたものの、引き続き不足。原木在庫ぎりぎりの状況で生産している。柱材等の注文が増加しているため対応したいが、原木調達が不安定で対応しきれない。(製材所)
- ◆原木の流通量は、前月から横ばい状況である。需要に対して生産が追いついていない。また、木材輸送車の確保が困難な状況である。(森林組合連合会)

# 公共工事

○24年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,633億円で過去最低を更新。

○25年10－12月期の公共工事請負金額は、国、県、市町村からの発注が増加したため、対前年同期比30.4%増と3期連続で前年同期の水準を上回った。



## 現場の動き

- ◆全体的に手持ち工事も多く、技術者も不足している状況である。一方、資材価格が高騰しており各社利益を確保できているかは今年度の各社決算を注視する必要がある。(業界団体)
- ◆今年度は土木は昨年度に比べれば明らかに動いている。決算はこれからなので、数値として改善していることを期待している。(金融機関)

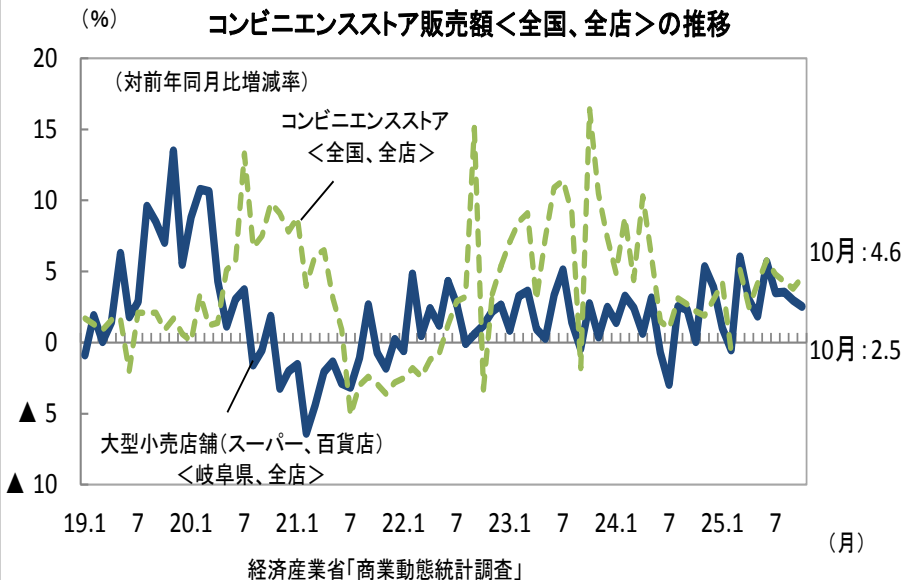


# 個人消費(流通・小売)

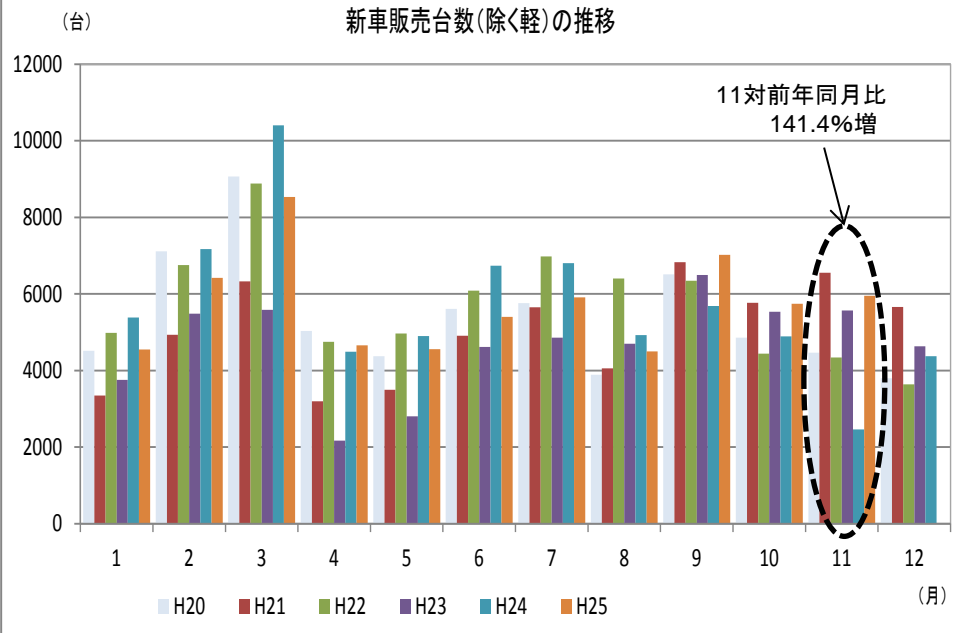
○10月の大型小売店販売額は、対前年同月比2.5%増と8カ月連続の増加となった。

○11月の自動車販売は前年同期比141.4%増と3か月連続の増加となった。

大型小売店舗販売額<岐阜県、全店>及び  
コンビニエンスストア販売額<全国、全店>の推移



新車販売台数(除く軽)の推移



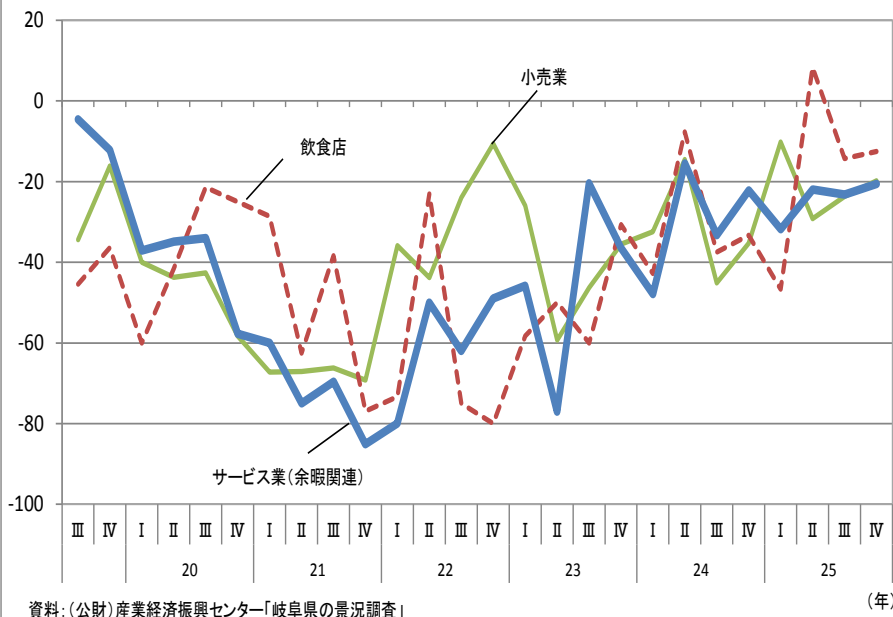
## 現場の動き

- ◆衣料品はセール時期等の影響により店舗業績にバラツキがあるものの、高価格の商品が売れ始めた。食料品は堅調に推移。
- ◆クリスマス関連の商品はきちんと売れており、確実な売り上げを維持した。
- ◆おせち関連は昨年以上に今年も好調で、約1割の伸び。ネット注文が特に好調だった。(以上、大型小売店)
- ◆12月の売り上げは堅調に推移。正月期間の初日は、福袋を中心に前年を大きく上回る売り上げを記録した。(スポーツ用品)
- ◆12月の売り上げも前年割れの状況となった。正月期間の売り上げは順調に推移。年末とは違い、品質のいいもの、高いものがよく売れていた。(食品スーパー)
- ◆12月の売り上げは前年を少し上回る状況。正月期間は前年を上回る動き。(家電)

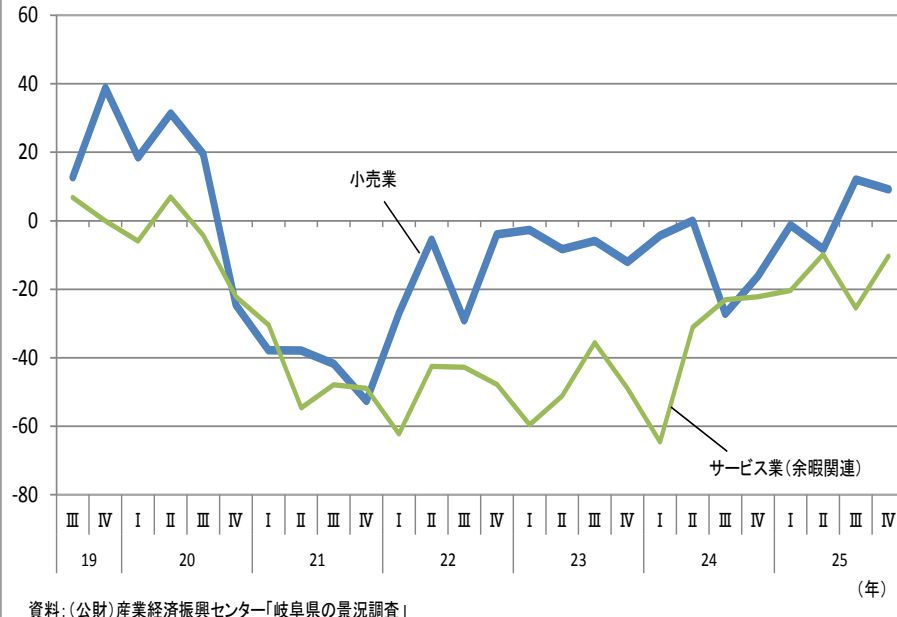
## 個人消費(流通・小売)－2

○平成25年第Ⅳ四半期の小売業については売上高は増加したものの、販売価格は減少。サービス業については売上高、販売価格ともに増加。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



### 現場の動き

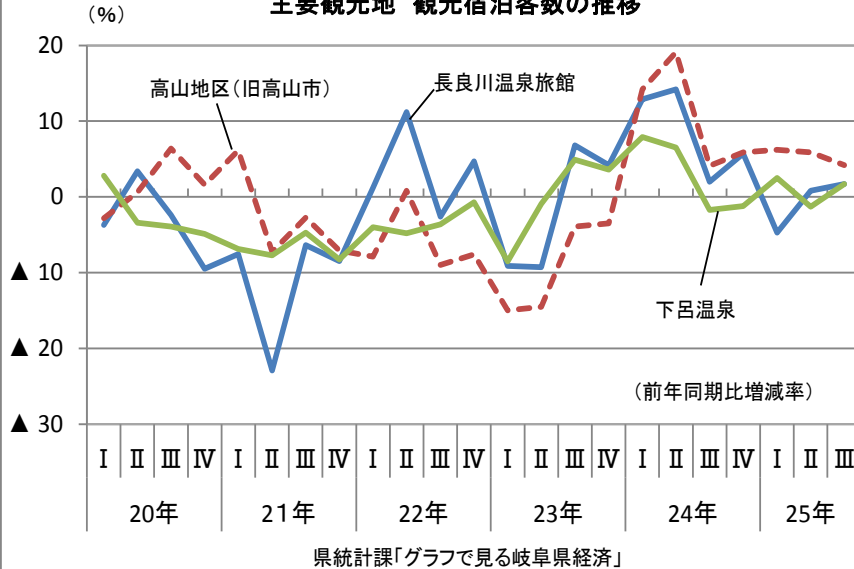
- ◆年始の新春マラソン以外の日は、人通りは少ない。(大垣市商店街)
- ◆12月21日は「ゆるくり2013」があり大変な賑わいだった。年始の人通りは少ない。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆年末年始の休みが長く、観光客が多かった。
- ◆年末から年始にかけて観光客で賑わっている。年末年始の休みが長く、雪が少ないため観光客が多い。  
(以上、高山市商店街)
- ◆前年同月比で100%。売上げが伸びたものと減ったものがあり、トータルとしては前年並み。(多治見市商店街)
- ◆物販全体の売上げ、客数とも前年同月比で減であった。
- ◆売上げ、客数とも前年同月比で増であった。(以上、アクティブG)
- ◆全般的に好調、特に自動車関連部品は上期～下期通して好調であったし、3月まで続くと予想している。(運輸業)

# 観光

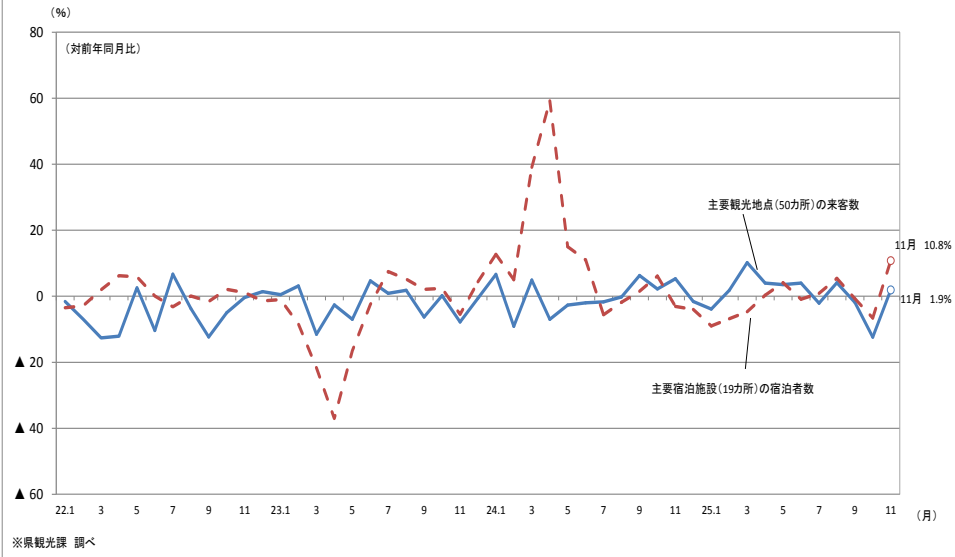
○平成25年第Ⅲ四半期の宿泊客数は、長良川温泉旅館が前年同月比1.7%、高山地区(旧高山市)が4.2%、下呂温泉が1.7%と全ての地区で増加した。

○主要観光地における11月の観光客数は、前年同月比1.9%増と3か月ぶりに前年を上回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数は同10.8%増と3か月ぶりに前年を上回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



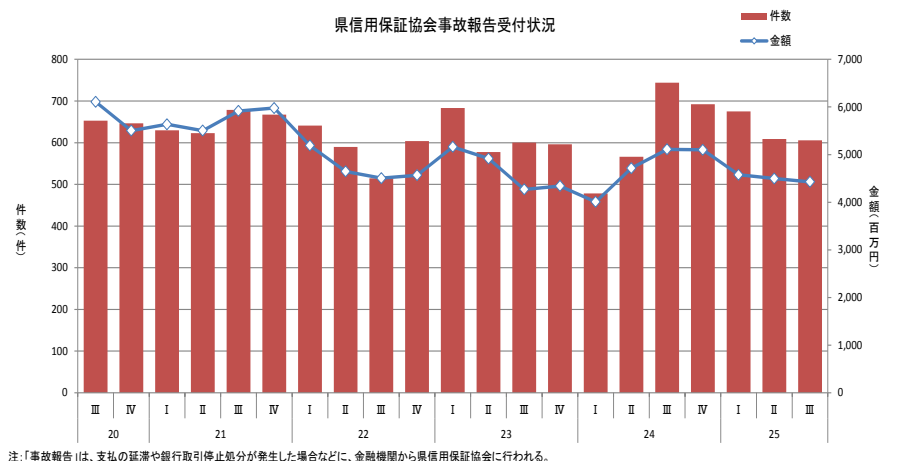
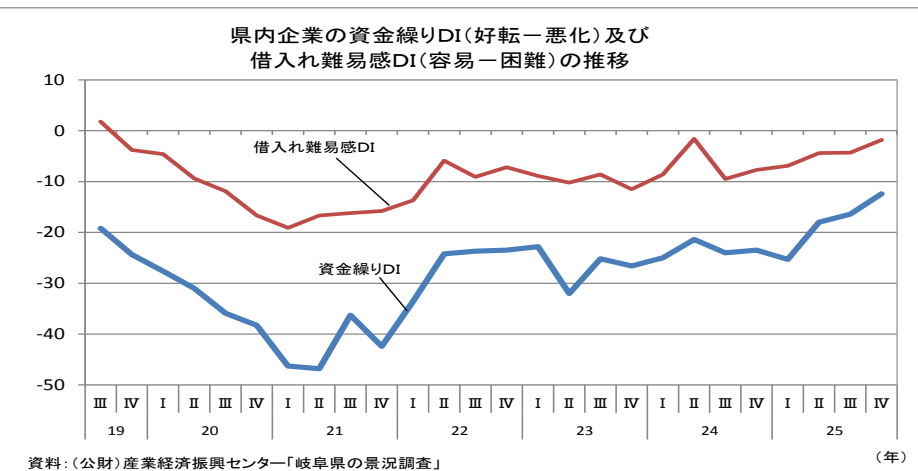
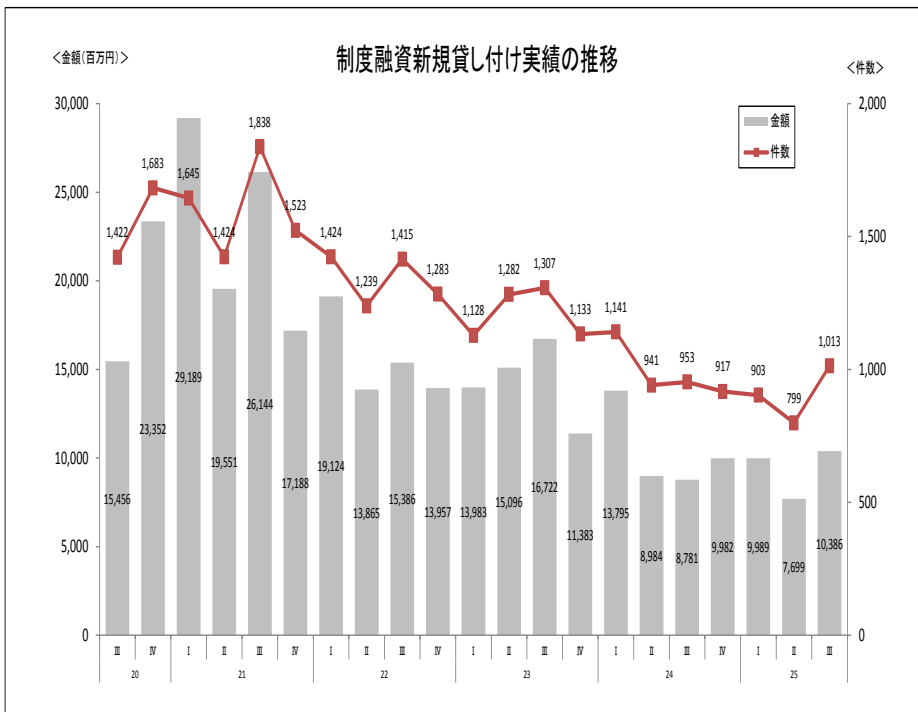
## 現場の動き

- ◆施設によってバラツキはあるものの、年末年始の連休が例年に比べ長いこともあり、総じて前年をやや上回る模様。インバウンドは東南アジアや東アジアなどが堅調で、旧正月の問い合わせも徐々に見られる。(宿泊施設の総括)
- ◆年末年始の休暇が長いことやクーポンサイト等の媒体を活用したこともあり、前年に比べ好調。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆年末年始の休みが長いこともあり、全体的にも前年の水準を上回っている。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆今年の年末年始は12/28～1/3が好調。 ◆12/29～1/3の間は例年よりも好調。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆12/28～1/4まで全て満室状態。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆アジアの募集团体ツアーが集中。 ◆旧正月の予約について、多くの団体から問い合わせ有。(以上、岐阜市内の宿泊施設)
- ◆香港のFIT(個人旅行)が極めて好調。欧州も順調。(高山市内の宿泊施設)
- ◆タイの増加が著しく、商談会に参加した際も、富裕層やインセンティブの需要の大きさを感じた。(奥飛驒の宿泊施設)

# 資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しを感じる。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

## <新規融資実績>



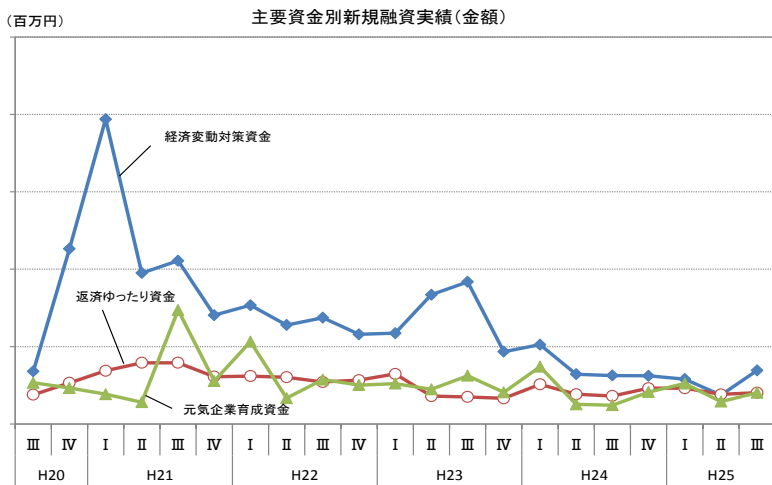
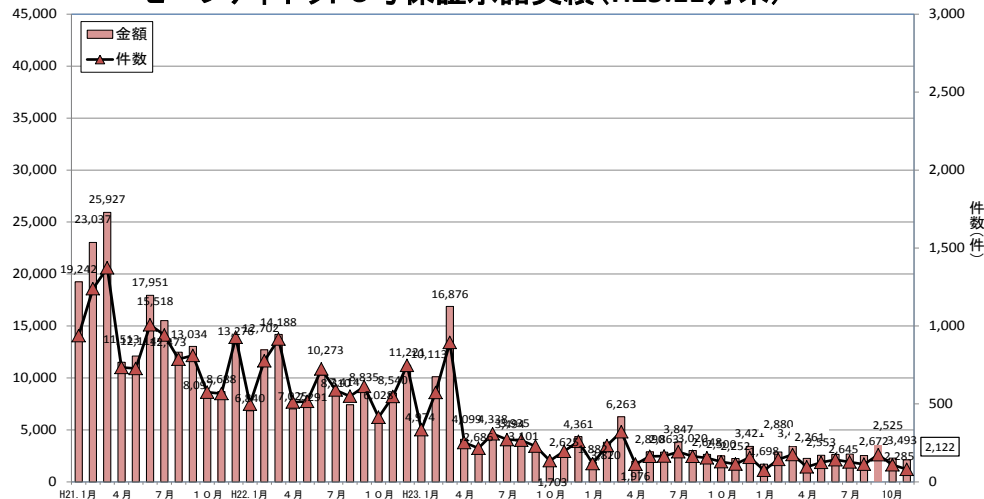
## 現場の動き

- ◆基本的な状況は、悪くはなっていないが、横ばい。
- ◆事業者の資金需要の話があっても、単発(その会社独自)な感はある。(以上、金融機関)

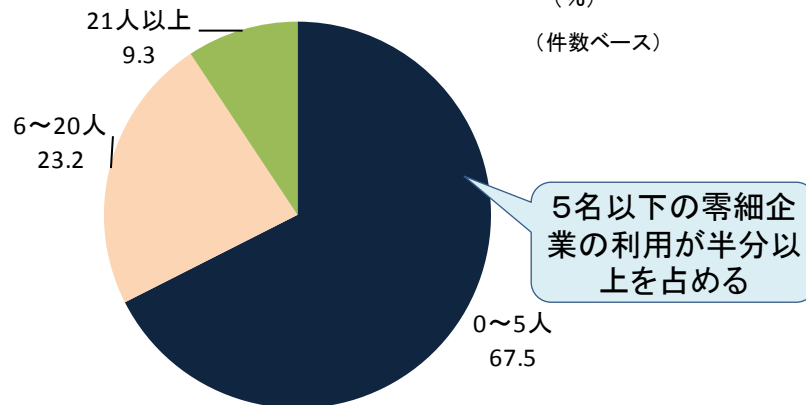
# 資金繰り-2

○資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。  
 ○引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。

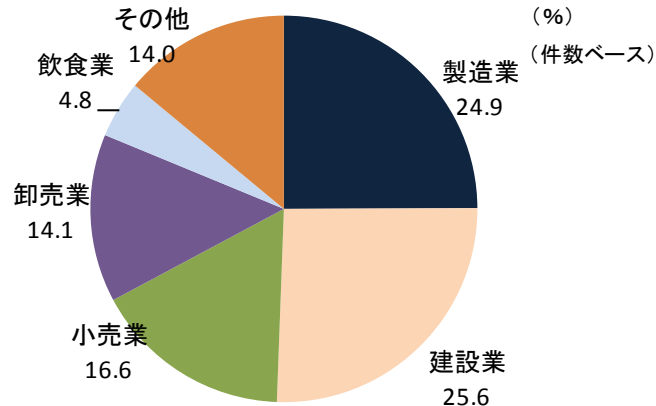
セーフティネット5号保証承諾実績(H25.11月末)



県制度融資 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



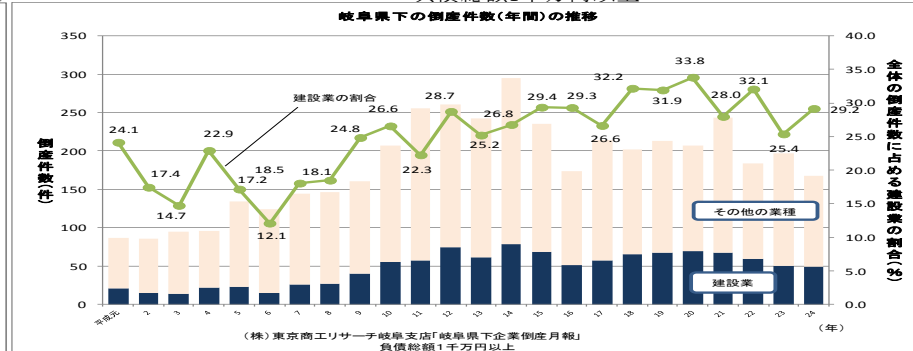
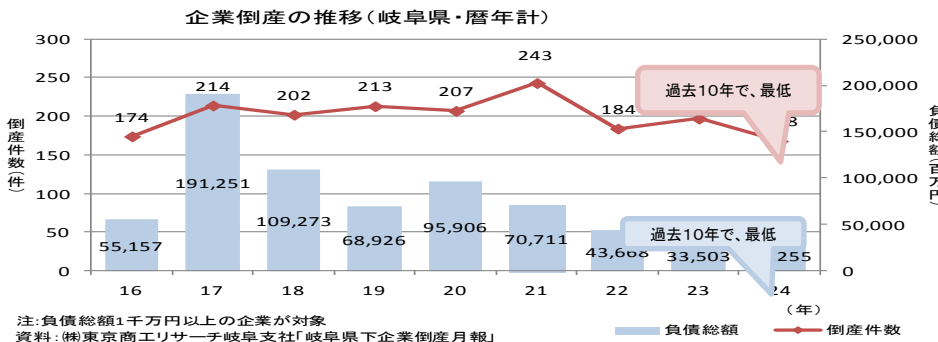
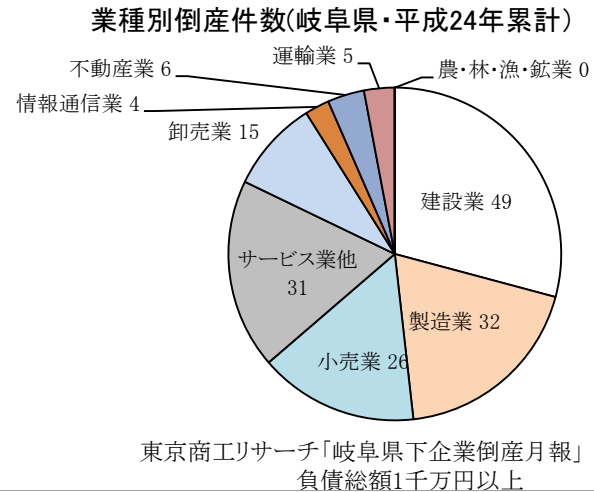
特別経済対策資金 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



# 倒産

- 平成25年11月の倒産件数は前年同月と同数の18件となった。
- 平成24年の倒産件数は168件となり、前年から29件減少。負債総額は平成10年以降最も低い水準。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



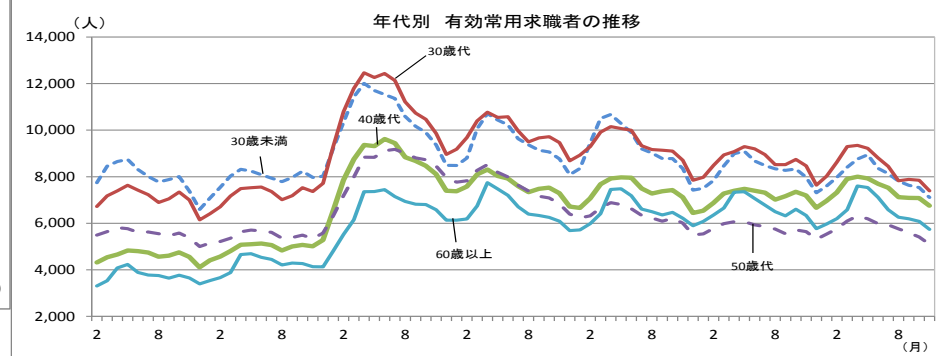
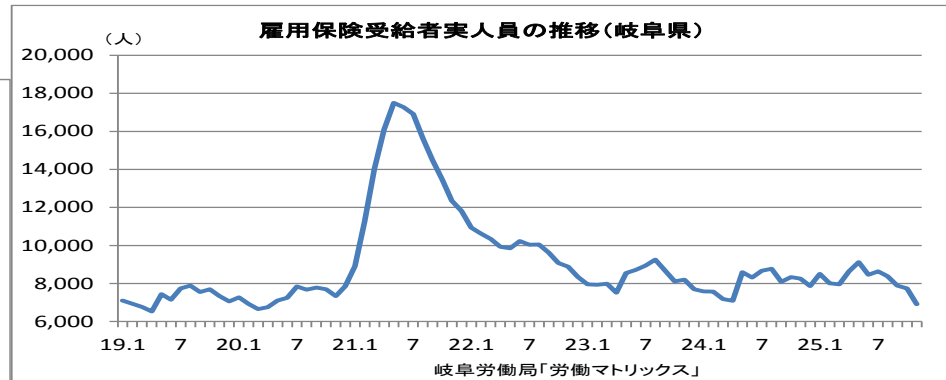
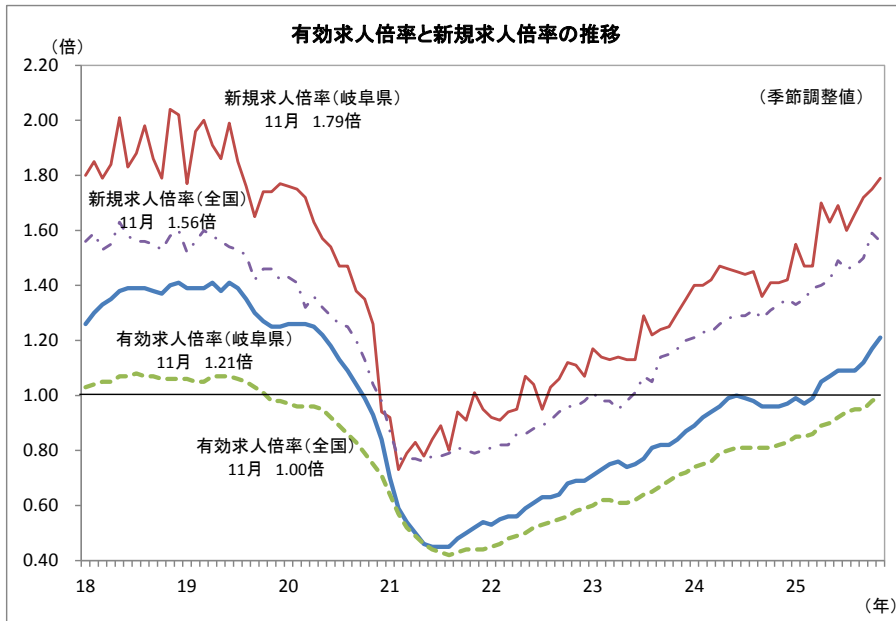
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆11月の県内倒産件数は18件、負債総額は19億5500万円となった。倒産件数は前年同月と同数、負債総額は前年同月比21.8%の減となった。倒産件数は1月から10月の累計件数が166件で前年同期間累計の158件を上回った。
- ◆平成26年4月からの消費税増税が決定し、関連業界の駆け込み需要が期待されるが、価格競争の影響から中小零細企業の業績改善がどれだけ進むかは不透明である。

# 雇用

○11月の有効求人倍率は1.21倍と前月より0.04ポイント上昇。また、新規求人倍率は1.79倍と前月より0.04ポイント上昇。

○11月の雇用保険受給者人員は6,911人と前年同月と比べて16.3%減少した。

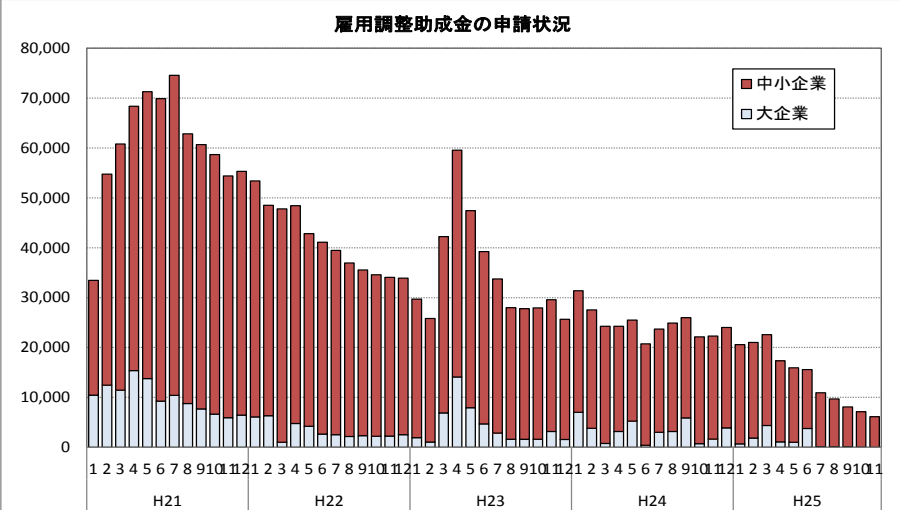
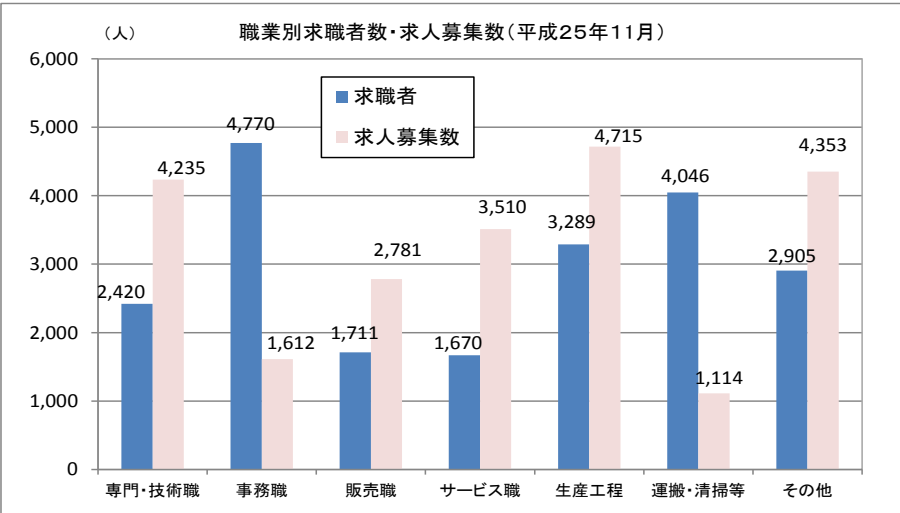


## 現場の動き

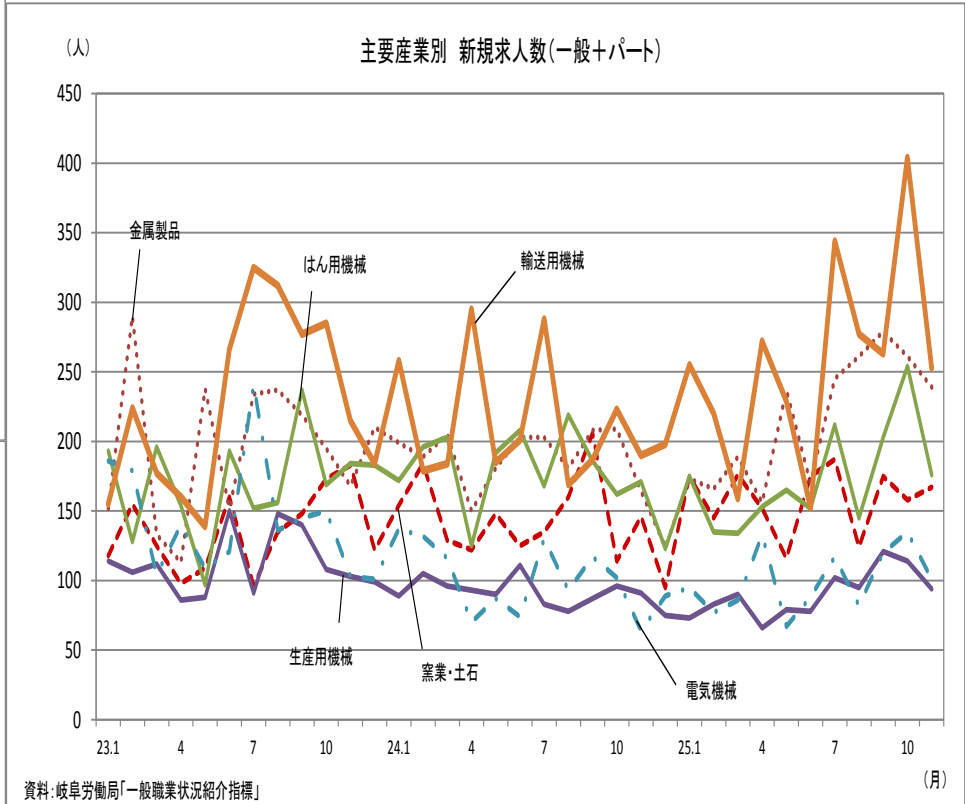
- ◆周辺企業の活性化による影響のためか、求人を出しても応募数が以前と比較して少なくなりつつある。(食品製造)
- ◆1月も横ばいの予測で、非正規従業員の手配を継続中。
- ◆10月から期間工2名の募集をかけていたが、人が集まらずハローワークに募集の取り下げをした。(以上、輸送用機械)
- ◆12月に中途採用で事務系2名を採用した。引き続き、営業系や技術系の中途採用の募集を行っているが、なかなか即戦力となる人材が集まらない。(金属製品)
- ◆業務多忙により、平成26年4月からの増員を検討中。(木工)
- ◆昨年同月比175%と大きく伸びている。背景を見ると、秋口以降の増員・欠員補充としての依頼が増加傾向にあることに加え、年末年始～年度末にかけての繁忙期対応のための依頼が増えている。(人材派遣会社)

# 雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい。
- 新規求人は窯業・土石等で増加したものの、はん用機械、輸送用機械等の産業で減少した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したが現在は減少。



資料:厚生労働省「雇用調整助成金等に関する「休業等実施計画届」受理状況」

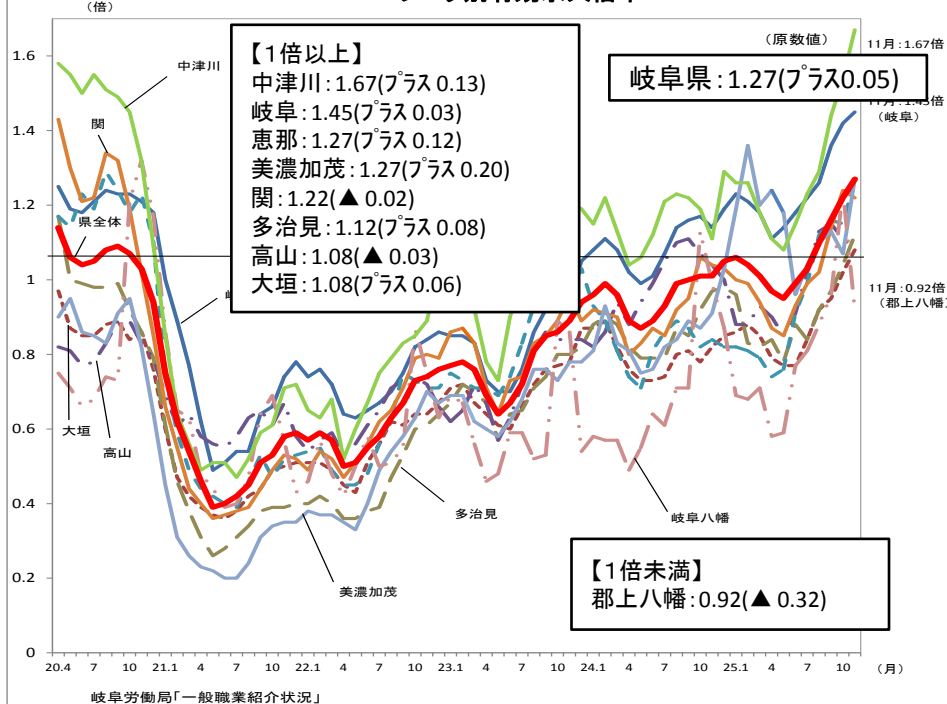


資料:岐阜労働局「一般職業状況紹介指標」



# 雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



## <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は横ばいだが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

## <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

## <ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

## <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数が増加しているが、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

## <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

## <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少しているが、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険の受給者数は横ばい。

## <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は横ばいだが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

## 【ソニーEMCS美濃加茂サイト関連】

- 従業者数
  - 平成24年10月末: 2,160人(外国人835人)
  - 平成25年3月末: 0人
- ハローワーク窓口の状況(12月25日現在)
  - 求職者数 195人(うち 外国人 60人)

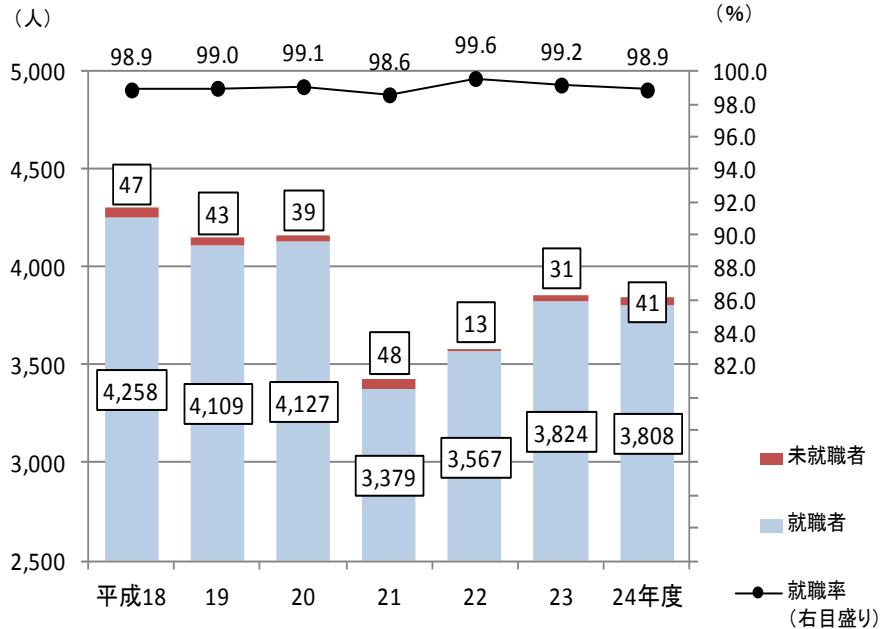
## <ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

# 雇 用(高校新卒者の就職)

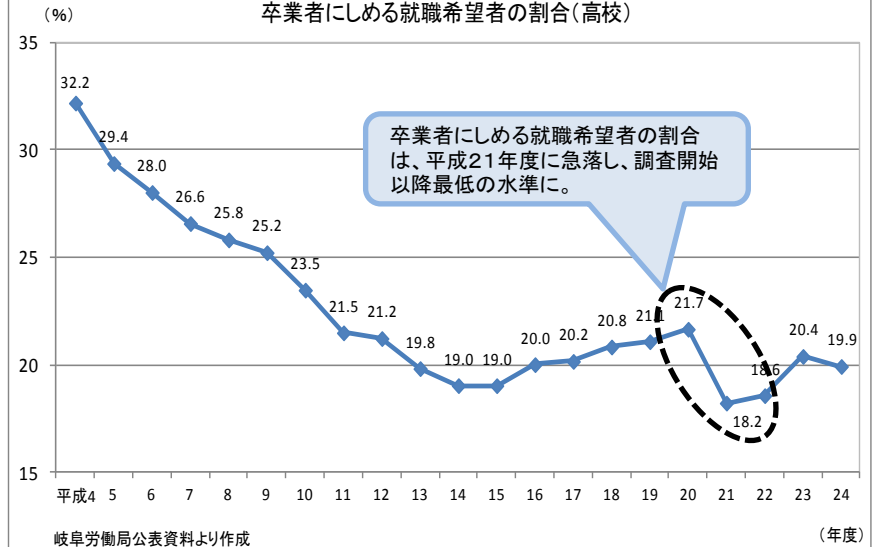
○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



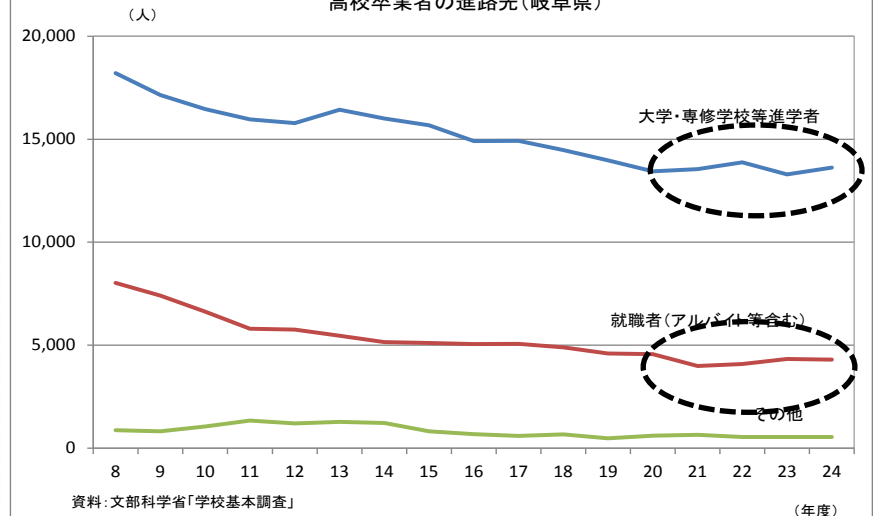
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



岐阜労働局公表資料より作成

高校卒業者の進路先(岐阜県)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

## 現場の動き(求人状況)

<ハローワーク岐阜、大垣、高山、美濃加茂、中津川>

◆高校卒業予定者の求人が増加。

<ハローワーク関>

◆高校卒業予定者の求人は横ばい。

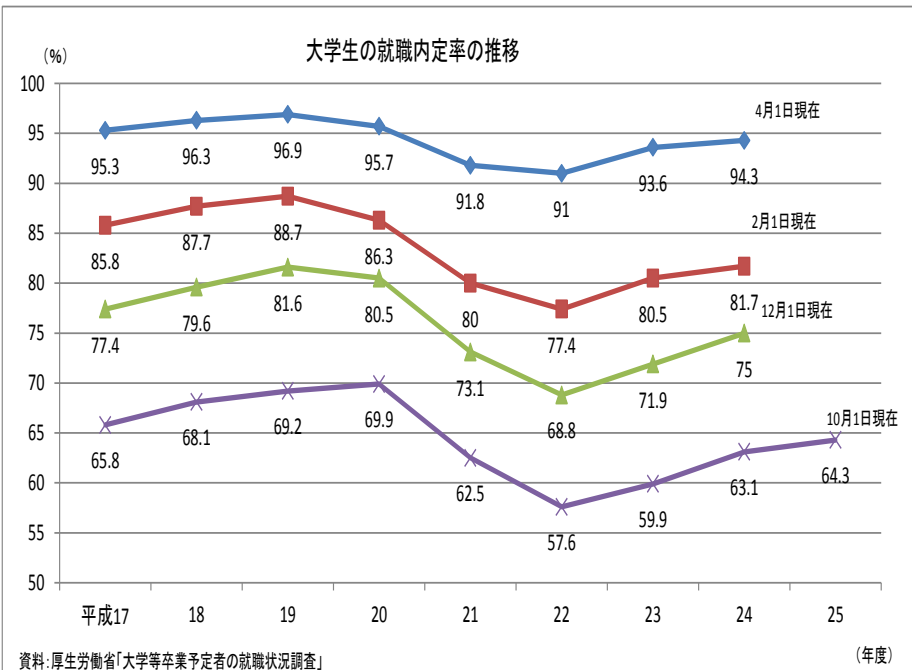
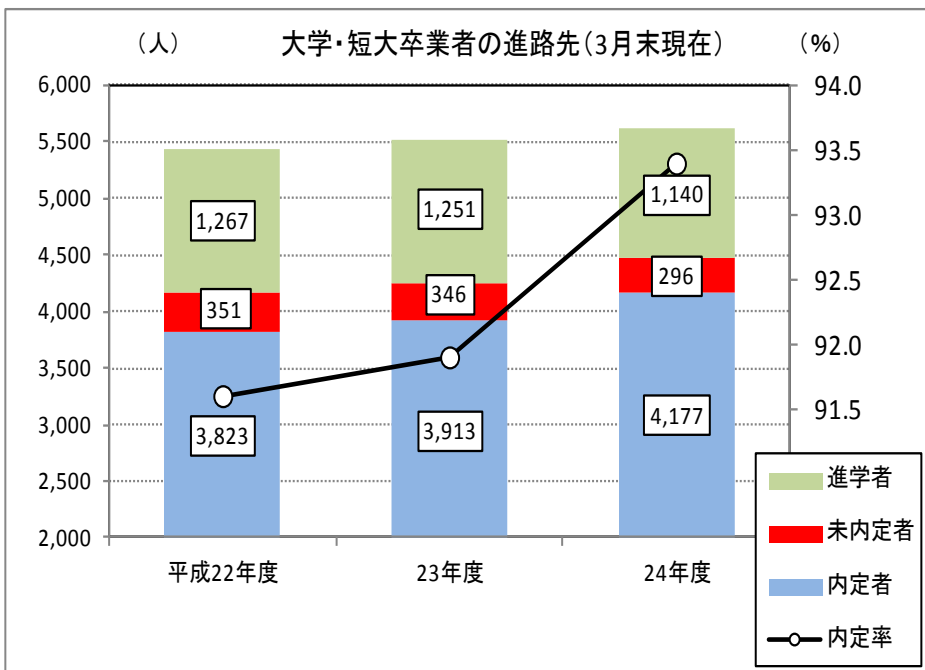
<ハローワーク多治見、恵那>

◆高校卒業予定者の求人が減少。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○平成24年度の大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。

○平成25年度の卒業予定者については、前年度同期より内定率が上昇傾向。



## 現場の動き

### 【岐阜県内の主な大学】

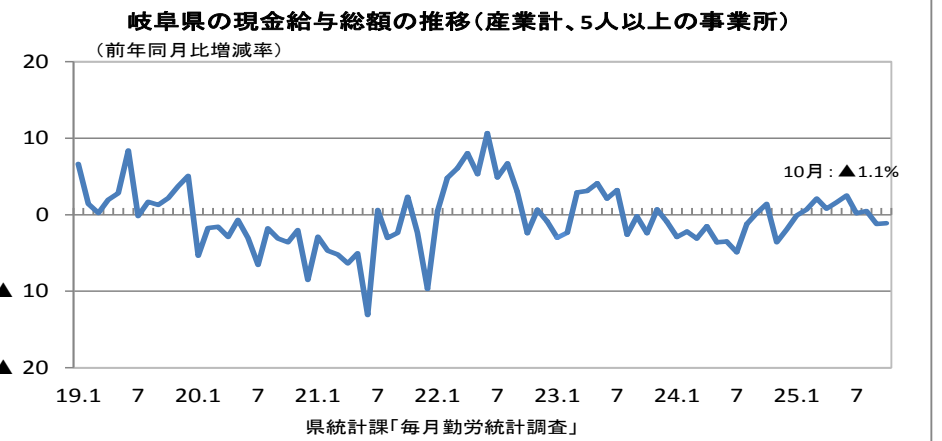
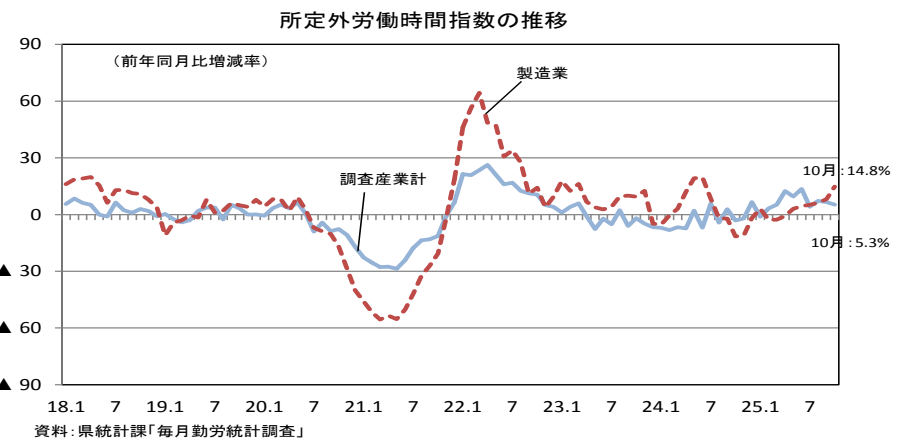
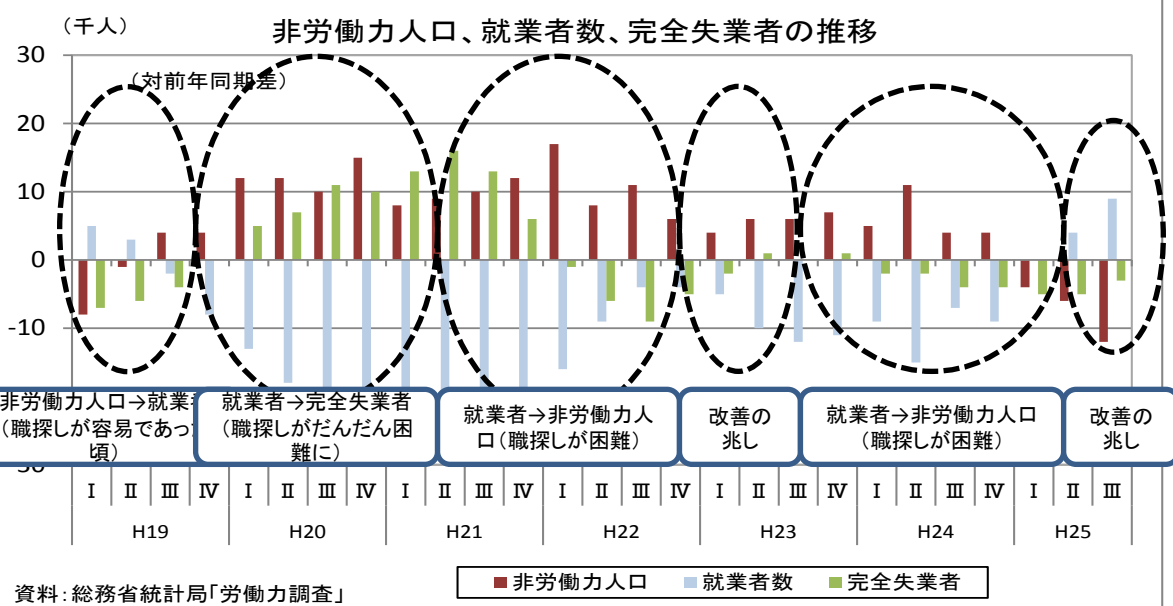
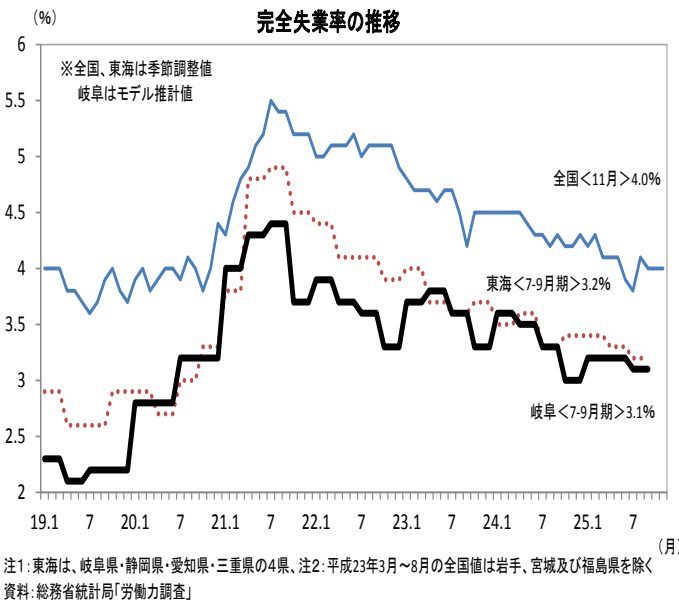
- ・2014年卒の内定率は学部生の内定率は12月初旬の内定率は78%前後(学生報告ベース)。
- ・2014年卒の内定状況は70%程(報告ベース)の状況。残り50名弱の学生が未内定の状況。
- ・2014年卒の内定状況は65%(学生報告ベース)で、昨年比でも同等になってきた状況。

### 【愛知県内の主な大学】

- ・2014年卒の内定状況は11月末の時点で82%を超え、昨年比でも10%程アップで順調にきている。
- ・2014年卒の内定状況として12月上旬で約60%(学生報告ベース)の状況。報告ベースの為、実際には7割に届いていると思われる。
- ・2014年卒の内定状況は、12月下旬で65.8%、昨年度より2%程ダウンの状況。

# 雇用(完全失業率)

○平成25年第Ⅲ四半期の完全失業率は3.1%と前期比で0.1ポイント改善。  
 ○平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第Ⅲ四半期以降は改善の兆しも見られた。その後再び厳しい状況となったが、直近では改善する兆しがみられる。



## < 経済・雇用の現状（総括） >

- 製造業全体では、円安により原材料価格の上昇が生じているものの、輸送機械関連を中心に受注や生産が増加しており収益が改善している。  
生産用機械やはん用機械では、国内企業の設備投資が低迷していることから伸び悩んでいる企業が多い。
- 直近の円安の動きについては、輸出を主とする企業の売上げが増加する一方で、原材料価格の上昇により製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が難しく利益を圧迫している。
- 地場産業は、木工では住宅着工増により需要が増加しているが、他の業種については依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売について、衣料品は高価格の商品が売れ始めた。食料品は引き続き堅調に推移。おせち関連品も好調であった。
- 観光は、年末年始の連休が例年に比べ長いこともあり、総じて前年をやや上回る模様。インバウンドは東南アジアや東アジアなどが堅調で、旧正月の問い合わせも見られる。
- 雇用面では、生産量の増加により業務量が増えたため雇用を増やそうとしたが応募がなく、採用を見送る企業が出ている。派遣会社に対しては企業からの派遣要望が増加している。
- 企業の資金繰りは、横ばい状態が続いており、新規借入れ需要は依然少ないが、下げ止まりの兆しが感じられる。